

オンライン企画展「明石博高と島津源蔵―京の近代科学技術教育の先駆者たち―」の公開

松田 清

島津製作所は日本を代表する総合精密機器メーカーとしてよく知られているが、「西洋鍛冶屋」島津源蔵（一八三九―一八九四）が明治八年に京都木屋町二条下ルの自宅で始めた教育用理化学器機製造にそのルーツがあることはあまり知られていない。まして、明治初年、源蔵と同時代に、京都府の教育・衛生・殖産興業政策を推進した医師明石博高（一八三九―一九一〇）の業績はまったく忘れ去られてきた。

本学附属図書館所蔵神田佐野文庫若林コレクションは京都伏見の若林春和堂主人若林正治氏が半生をかけて蒐集した貴重な洋学資料からなる。春和堂は初代若山屋茂助、二代若林茂助の二

代にわたって幕末明治期の京都で蘭学・洋学書・医学書を出版した書肆であった。正治氏は先祖の活躍に思いを馳せながら、京都洋学資料の蒐集に励んだようだ。

一方、国際日本文化研究センター（以下、日文研と略称）の宗田文庫は日本医療文化史の大家であった宗田一氏（一九二一―一九九六）旧蔵の膨大な書籍・資料群である。筆者は一九九七年（当時、日文研客員教授）、遺族の依頼によりその整理と仮調査を行い、日文研収納に従事した。宗田文庫はボンペ、マンズフェルト、ボードイン、ヘールツなどオランダ人御雇教師の資料、明石博高が手がけた療病院、

京都舎密局関係資料、明石博高旧蔵金属標本（ヘールツから入手したカドミウム、錫、鉛）、明石の診療カルテなど京都近代医学資料が豊富である。

本展示の企画は筆者が、宗田文庫と同時に日文研に収納された、宗田一氏の個人資料（日本医療文化史研究の基礎となった研究ノート・原稿・調査記録・複写資料など）の整理調査に従事した光平有希氏（日文研特任助教）から、明石博高を中心に京都の近代医療黎明期を対象とする展示企画の相談を受けたことが契機となり生まれた。すなわち、宗田文庫の京都近代医学資料、島津製作所創業記念資料館（以下、島津資料館と略称）の教育用理化学器機コレクション、神田佐野文庫若林コレクションの京都洋学資料を一堂のもとに構成する産学連携の新しい試みである。

本企画展は幸いにも、日文研の所属する人間文化研究機構の二〇二〇年度

基幹研究プロジェクト「博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業」に採択され、京都国立博物館、京都府立京都学・歴史館、京都府立医科大学附属図書館、長崎大学附属図書館医学分館、佐倉市教育委員会他、諸個人のご協力とご支援を得て、二〇二一年一月一二日から二月二六日まで、島津資料館において開催する予定であった。

しかしながら、コロナ禍が急速に拡大し、同資料館を会場とする展示は開催できなくなった。そのため、図録『企画展 明石博高と島津源蔵―京の近代科学技術教育の先駆者たち―』（国際日本文化研究センター、二〇二一年一月発行、A4判、一三五頁、うちカラー図版八〇頁、制作臨川書店、非売品）をもとに、オンライン企画展

のコンテンツを制作し、二〇二〇年度中に日文研ウェブサイトで公開することになった。

同図録は表紙に、若林コレクシヨンから宇喜多小十郎輯『開化節用』（明治八年刊）の口絵を採用し、左記の三章をもつて構成した。収録資料総数は計一五〇点にのぼる。神田外語大学所蔵資料は第一章、第二章合わせて合計三八点である。その主なものを左記に示す。

第一章 京都近代科学教育の黎明―洋学の発展と科学知識の普及―（四〇点）
ジャワ植物図譜 依卜加得文章一
訳鍵 医門須知和蘭語法解
ドゥーフ・ハルマ 微塵銅版画集
銅版新鐫極細書画便覧 洋算手引

艸 学校必用増補暗誦便覧
第二章 明石博高―産業・医療・理化学の先駆者―（五二点）

朋氏解体諸 葉名アベセ ギラルジン『教養人・工場のための化学』開化節用 木の葉文典
第三章 島津源蔵―科学・技術の研究、啓蒙への情熱―（五八点）

同図録には、企画委員の松田、フレデリック・クレインス（日文研教授）、川勝美早子（島津資料館学芸員）、光平有希（日文研特任助教）が資料解説および「こらむ」を分担執筆し、漆崎文彩（島津製作所グローバルアプリーケーシヨン開発センター）が「明石博高旧蔵金属標本」のEDX分析結果を寄稿した。